

(専門学科分科会)

愛知県立豊橋工業高等学校

通して、それらを総合的に学べるようにしている。開発した教材や授業は、現代社会や政策などの公民科科目、修学旅行の事前学習(ディスク学習)にも応用している。

【総合テーマ／授業／課題解決学習】

「現代社会」一年生の課題研究を沖縄をテーマに行つた事例である。反戦平和をテーマに課題研究する予定であったが、沖縄を自然環境・経済・文化・政治など多面的に学ぶことで沖縄の基地問題を身近に感じ自分のこととして仮説を立て、多様なテーマを生徒が設定して行うことになった。まず一人ひとりの沖縄についてのイメージ・既有知識・興味関心のあることを授業で出し合い、それを社会科通信で学年で共有した。まず個人の研究課題を設定する。似たようなテーマの人でグループを作り、個人研究とグループ研究をどのように調べてまとめていくか計画を立て、個人研究を行つた。調べてきたことをグループ内で情報交換し、「気づき、分かち合い、ふりかえり、わからい」を繰り返してテーマを生徒一人ひとりの興味関心がある個性的・内面的なものにして仮説を立て、多様なテーマを生徒が設定して行つた。個人研究も地域へ出て調査したり、イメージなどを授業で出し合い、

ちだけだと寂しいので近隣の普通科高校の生徒会にも呼びかけて三校合同で懇親会を開いた。他の生徒や教員も義理学校の文化祭の活動で遊びを感じたようだった。私が転勤した翌年度も工業高校の招待は続き、義理学校との工業高校・普通科高校の文化祭交流も餅つき以外企画で継続していく。普段していない面白いことをしようの連続が、地域での新しい関係や活動を生んだ事例である。

【平和学習／特別活動／地域連携】

同じ工業高校で勤務していた頃、学校で幽霊が出るといふ話で聞かれた。よくある話と笑って聞いていたが、かつてこの地域にあった海軍工廠が米軍の大空襲を受けて死者が多数たことや、海軍工廠で働く工員の養成学校が当工業高校の前身であつたと知り感動を感じた。生徒会に地域の歴史を調べる活動を探査した。空襲生存者の聞き取り、名古屋大学研究施設に残る爆撃被害の戦跡を見学、市内戦跡マップ作りをした。その縁で出会つた、学徒勤員で多くの同級生を亡くした勤務員の生存者の女性を学校へ招いて全校講演会を開いた。

ンタビューをする仕方やマナー・注意事項を学んで行った。個人研究レポートは自己評価とグループ内で他者評価を行なった。互いの調べたことを討論してまとめ、壁新聞や作品を作つた。個人レポートの優秀作品を社会科教科会で選出した。優秀作品集・個人レポートやグループ制作物を展示して、多様な観点や意見があることに気づき共有可能性を感じた。生徒の高いモチベーションを維持できるよう三人の社会科教員が工夫協力して取り組んだ。沖縄の基地問題や沖縄戦も当然取り組んだが、多面的な沖縄学習によって、より印象が強いものとなつたようだ。

【環境教育／特別活動／体験学習／交流／地域連携】

工業高校に勤務していた時の実践例である。「工業の勉強ばかりしててダメだ、農業のことをもっと知る」と生徒会を説得して、「環境学習」として地元農協の「アイガモ農法田園オーナー」になつてもらい、生徒会が参加生徒を公募して、田植え、草取り、稲刈りを行つた。収穫後に、もち米と交換して、義理学校生徒会との交流として文化祭へ「餅つき」をもち込むことにした。自分た

- 54 -

感してもらい、講師を努めることに責任感・達成感・誇りをもつてもらい、教員側にも受け入れる体制づくりや、おもてなしのマインドが生まれた。

【地域づくり／特別活動・福祉教育／ボランティア学習】

地域活動という体験が先行しながら、地域課題に気づいて活動事例である。奥三河の中山間地の独居老人の方の誕生日祝として鉢植えの花をプレゼントする訪問活動をした。お元気な方が少なくないが、普段訪ねる人がほとんどなく生徒の訪問に涙を流す方や、脳溢血で倒れて寝たきりの元看護婦長さんが生徒の手を握つて離さないなど、楽しい活動のつくりが厳しい独居老人の現実を知り高齢者福祉について考えさせられた。子どもの夏休みの宿題を手伝いに行くと、日系ベル一人やブラジル人の子どもに大人より上手く参加体験型学習でゴミの分別を教える。子どもとの交流体験活動をしようと集まつた高校生が、青年リーダーがファシリテーターを務めるワークショップで企画し、教育委員会や地域のボランティアなど異年齢の方々と準備をして取り組んだ。子どもたちから参加して、ものを作ることを作る楽しさを知つたことが大きかった。学校内で完結せず単発のイベントではなく動員ではない「社会参加」の体験は生徒に深い満足感を与えた。地域の青年や行政マンがファシリテーターとして高校生に市民性教育を行つた意義が大きい。行政・企業・学校生に市民性教育を行つた意識が大きい。行政・企業・地域住民などセクター間を越えた高校生の地域活動のプラットフォームが自律的に形成され、それぞれにコーディネーターも生まれた事例である。

3 ポストESDの「シチズンシップ／市民性教育」へ向けて

環境学習・開発教育以外のものを多く事例として紹介した。こんなのがESDなのか、人権・平和・福祉・環境に社会科の授業を並べただけではないかと思われるかもしれませんが。しかし、これらはバラバラの寄せ集めではない。子どもが自発的、主体的に社会問題を考え、話し合い、他の人と協力して問題解決の活動に参加し、次の

世代の市民へと成長するのを目的として「福祉教育・ボランティア学習」として取り組んだ事例である。

①多文化共生、②開発、③環境、④平和、⑤福祉、⑥人権、⑦ジェンダー、⑧国際理解、⑨地域づくり、⑩平ヤリア、⑪災害等のテーマで、①教科、②特別活動(HR活動、SIT、学校行事、部活動)、③ボランティア学習、④その他(校内誌等)などの領域で、⑤講義型、⑥参加体験型等の方法である。(a)学校アプローチ型、(b)委託事業や地域連携型、(c)プラットフォーム形成型、(d)地域経営型等の地域とかかわるか、という観点で、学校や地域が地域の子どもを育てる「地域で育つ子どもが高校卒業後も地域どつながりをもち続ける」ためには、地域の普通の方に講師として学校へ来てもらいたい。しかし、ある。しかし、それは特別なことである。やはり地域が地域の子どもを育てる「地域で育つ子どもが高校卒業後も地域どつながりをもち続ける」ためには、地域の普通の方に講師として学校へ来てもらいたい。しかし、交通費や謝礼が出てないとか、社会人講師の受け入れに学校が消極的な現実がある。そこで、地域のボランティア団体、自営業者、企業、NPOの方に交通費も謝礼も出ないけれど学校で話をしませんかと、市民ボランティア講師の依頼を頭を下げてまわつた。ボランティアで依頼するからこそ、授業の目標を明確にして市民の方と共に

／日本ボランティア・コーディネーター協会運営委員会

ボランティアに関するアンケート ボランティア活動体験者対象

(1)ボランティア活動に参加した理由は何ですか？

	1年	2年	3年	合計
内容に興味・関心があるから	1	3	13	17
経験したことがないことをしたかったから	0	3	8	11
楽しそうだから	0	1	6	7
社会のことに関心があるから	0	2	2	4
特技を生かせる	0	0	1	1
友達に誘われて	0	3	8	11
自分自身を成長させるため	0	3	2	5
人の役に立ちたいから	1	6	12	19
福祉関係の進学・就職したいので勉強のため	0	5	3	8
進学や就職に有利だから	0	3	8	11
先生に勧められたから	1	5	2	8
親に勧められたから	0	0	0	0
部活動	0	6	1	7
その他	1	1	0	2

(2)ボランティア活動をして何が良かったですか？

	1年	2年	3年	合計
人の役に立った実感があったこと	1	9	21	31
感謝されたこと	0	9	15	24
未知の体験ができたこと	1	5	3	9
色々な人の出会いがあったこと	0	6	16	22
進路について考えさせられたこと	0	2	1	3
自分の適性について反省させられたこと	0	3	2	5
社会について勉強したこと	0	4	4	8
地元の人や子どもと会って話ができるしたこと	0	7	3	10
技術やスキルがついたこと	1	1	1	3
時間を使効率的に活用できること	0	1	0	1
友達ができたこと	0	0	0	0
その他	0	0	0	0

	1年生	2年生	3年生	合計
担任の先生から紹介された	0	1	5	6
教室掲示プリント	0	2	22	24
その他掲示物	0	0	3	3
担任以外の先生から紹介された	0	11	2	13
その他	1	3	0	4

(4)ボランティア活動をして何に困りましたか？

	1年	2年	3年	合計
時間がない				0
お金がかかる				0
友達と遊び約束と重なった				1
場所が遠い				0
直前に知らされて日程調整ができない				0
家族の都合と重なった				5
未知の経験で不安				0
つまらなかった				0
目的が不明				0
一緒に参加する友達の都合がつかない				0
意義を感じなかった				0
参加したけれど、対応が冷たいかった				1
段取りが悪くイラシた				0
指示された後、ぼつたらかしにされた				0
仕方なく参加したのでやる気がなかった				0
足手まといになってしまった				0
子どもやお年寄りに接するのが苦手だった				0
子どもやお年寄りに接するのが苦手だった				2
子どもやお年寄りに接するのが苦手だった				1
子どもやお年寄りに接するのが苦手だった				3

(5)ボランティア活動を活発にするためには？

	1年生	2年生	3年生	合計
もっと早く日程を伝える				1
意義や目的を伝える				5
広報をしつかりする				1
楽しい活動を増やす				4
メニューを増やす				7
その他				12
その他の				14
その他の				25

- ◆ 実際に参加している生徒は、参加動機は「人の後に立ちたい」「感謝されたこと」「進学・進職に有利だからも多い。
- ◆ 良かった点として、「人の役に立てた実感があつたこと」「感謝されたこと」「実際に興味・関心がある。自己有用感を演出する工夫が必要である。
- ◆ 困ったこととして、「未知の経験で不安だったこと」「日程の調整がない」「場所が遠い」、「時間がない」が挙げられている。「初めてボランティア活動をする」という生徒に対して丁寧なコーディネーションが必要である。「アルバイト」をする高校生が増えたため日程調整は1ヵ月以上前から。高校生には「足」が課題。高校生の「多忙化」は昨今の大勢である。

企業・NPO・行政・地域との連携事例

資料

1 名称	ユニー・お店探検隊 活動				
2 主催	(株) ユニー／〇〇高校ボランティア部／〇〇市				
3 日時	8月22日(金) 9時30分～11時30分				
4 場所	ユニー・アピタ〇〇店内				
5 参加対象者	〇〇高校ボランティア部生徒、〇〇市□□小学校児童（外国人児童サポート事業対象児童ほか）、（株）ユニー環境部、（株）LAGOON、環境省中部パートナーシップセンター（EPO中部）、〇〇市企画広報課				
6 目的	ユニーの環境問題に対する取り組みを学ぶことを通じて、参加した児童・生徒が日常生活で消費者・生活者として環境問題の改善に対する行動への関心を持たせ、実践に取り組む意欲を形成する。また参加する外国人児童と本校の生徒が交流し、事業の事前学習や事後学習を行うことで地域の多文化共生社会のまちづくりにも貢献する。環境問題や多文化共生社会のまちづくりに持続的に取り組むため、企業・学校・行政の協働事業として、モデルケースとしても取り組む。				
7 費用	1) ユニーでの活動はユニーが負担する。 2) 活動に関する交通費、保険料、昼食費は〇〇市が負担する。 3) 参加者募集・広報は〇〇市が行い、ユニーは行わない。				
8) その他	〇〇き高校生は、「外国人サポート事業」の中で、環境に関するレクレーションを行ななどの事前学習を行ったり、当日の活動のサポートを行う。				

図2

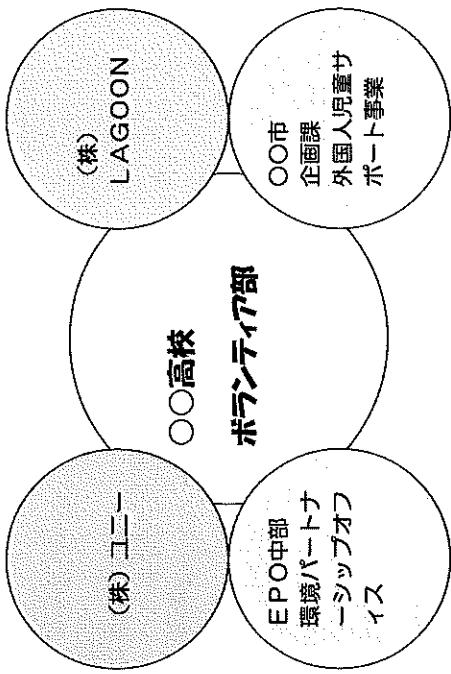
- ⑧子どもが主体的に取りかかり、大人と一緒に決定する。
- ⑦子どもが主体的に取りかかり、子どもと一緒に決定する。
- ⑥大人がしきけ、子どもと一緒に決定する。
- ⑤子どもが大人から意見を求められ、情報を与えられる。

- ④子どもは仕事を割り当てられるが、情報は与えられている。
- ③形だけの参画。
- ②お喋り参画。
- ①操り参画。

参画の段階

非参画

子どもたちの参画のはしご(ロジャーハート1992)



特定非営利活動法人日本ボランティアコーディネーター協会(JVCA)

ボランティアコーディネーター基本指針

～追求する価値と果たすべき役割～

私たちJVCAは、
ボランティアコーディネーター基本指針
を

明文化しました。

構成

- ①「どのような社会をめざすのか」
 - ②「どのようにボランティアをとらえるのか」
 - ③「どのようにボランティアに向き合うのか」
 - ④「どのようなボランティアコーディネーションを行うのか」
- そして、この①～④の視点に
＜大切な10の要素＞を掲げました

◎なぜ、いま基本指針を示すことが必要なのか

JVCAは、「ボランティアコーディネーターの専門的な役割を確立する」ことを目標に活動をしています。私たちは、ボランティアコーディネーションを一定の専門性に基づく業務であると考えており、この「基本指針」によって、自らの「仕事」の趣になっている考え方をともに理解し、さらには、少しでも多くの人たちにボランティアコーディネーターの役割を知っていただきたいと思います。

「ボランティアコーディネーター」に関する社会的な認知は、残念ながらまだ十分に広がっておりません。組織のなかでの位置づけがあいまいであつたり、役割が理解されていないがつたりといいう現状があります。また一方では、ボランティアコーディネーターという言葉が安易に使用される傾向も見られるようになってしまった。

そこで、いま、『ボランティアコーディネーター基本指針』を4つの視点に沿って明確にし、文章にまとめ、広く発信していくことが不可欠だと考えたのです。
この4つの基本的な問いをつなに念頭におきながら、自分自身の（脚場の）業務を進めたり、見直したり、また、あらためてボランティアコーディネーションのあり方を考え、話し合うきっかけにしていただきければと思います。

[1] どのような社会をめざすのか

ボランティアコーディネーターは、なぜ人々に社会参加を呼びかけるのでしょうか。
なぜ、ボランティアや市民活動団体を支援するのでしょうか。
また、組織やプロジェクトへのボランティアの参加をうながし、
目標に向かってどちらに活動しようとするのでしょうか。
それは、多くの人々の参加と行動によって
実現していく“社会像”があるからです。
一人ひとりの“市民”が自らも力を発揮し合ってこそ実現できる社会、それを「市民社会」という言葉で言い表しても良いかもしません。
どのような社会をめざすのか。私たちがめざす「市民社会」の要素を表します。

- 1-① 一人ひとりの自由な意見、自分らしい生き方が尊重される社会
- 1-② 一人ひとりが自分の力を生かせる社会
- 1-③ 一人ひとりの「弱さ」を分かち合える社会
- 1-④ 一人ひとりが役割を持ち対等な関係で働ける社会
- 1-⑤ 多様な文化を認め合えるグローバルな社会
- 1-⑥ 人々が協同（協働）して社会課題の解決に取り組む社会
- 1-⑦ 人々が自由に社会づくりに参画できる社会
- 1-⑧ 結果のみではなく、決めるプロセスを大切にする社会
- 1-⑨ 効率のみを優先させるのではなく、豊かな人間関係を創り出す社会
- 1-⑩ 自然環境を守り、命を受け継ぐことのできる持続可能な社会

[2] どのようにボランティアをとらえるのか

ボランティアコーディネーターにとって何より重要なことは、ボランティアおよびボランティア活動の本質をどのように理解するかということです。
ボランティア活動は、一般的に「自発性」「連帯性」「無償性」などという言葉で説明されますが、コーディネーターがボランティア活動をどのようにとらえているのがかは、日常のコーディネーションのあり方と質を左右する重要な要素です。
ボランティアに対する私たちの認識を具体的に表現します。

- 2-① ボランティアは「市民社会」を構築する重要な手である
- 2-② ボランティアは自分の意志で始める
- 2-③ ボランティアは自分の興味のある活動を自由に選べる
- 2-④ ボランティアは活動に対して責任を持つその役割を果たす
- 2-⑤ ボランティアは共感を活動のエネルギーにする
- 2-⑥ ボランティアは金銭によらないやりがいと成果を求める
- 2-⑦ ボランティアは活動を通して自らの新たな可能性を見いだす
- 2-⑧ ボランティアは活動を通して異なる社会の文化を理解する
- 2-⑨ ボランティアは活動に新しい視点や提案を示し行動する
- 2-⑩ ボランティアは安価な労働ではなく、無限の創造力である

[3] どのようにボランティアに向き合うのか

ボランティアコーディネーターは、ボランティアや活動を希望する人たちを、いかに支援し、協働することが必要なのでしょうか。どのようなスタンスでボランティアと向き合い、かかわりをもつべきなのでしょうか。ボランティアコーディネーターがボランティアと向き合う基本を具体的に表します。

- 3-① ボランティアの意図を確認し、希望を尊重する
- 3-② ボランティア一人ひとりの経験や関心、活動動機を尊重する
- 3-③ ボランティア一人ひとりのなかにある力や可能性を信じる
- 3-④ ボランティアに共感する気持ちを大切にする
- 3-⑤ ボランティアの多様な意見や考え方を受容し、活かす姿勢を持つ
- 3-⑥ ボランティアとコーディネーターは対等であるという自覚を持つ
- 3-⑦ ボランティアとコーディネーターの役割の違いを認識する
- 3-⑧ 豊富な情報、社会資源のネットワークを用意しておく
- 3-⑨ ボランティアが新たな課題や活動に挑戦することを応援する
- 3-⑩ ボランティアと課題を共有し、ともに考える姿勢を持つ

[4] どのようなボランティアコーディネーションを行うのか

ボランティアコーディネーションとは、どのような視点をもって、どのようなことが行われるべきなのでしょうか。ボランティアコーディネーターの役割と専門性について理解いただくために、ボランティアコーディネーションとは何かを具体的に表します。

- 4-① ボランティアが活動を通して、"市民"として成熟していくプロセスを大切にし、それを支える
- 4-② ボランティアの動機やニーズ、得意分野などをていねいに聞き、活動の選択に立つ情報を提供する
- 4-③ ボランティアコーディネーター自身がビジョンや社会観を持ち、ボランティアや関係者に対してわかりやすく発信する
- 4-④ 人と人、人と組織を対等につなぎ、一方的な人間関係や上下関係などがないように調整をはかる
- 4-⑤ ボランティアの力が活かされるような環境をつくり、活動への意欲が高まるような工夫をする
- 4-⑥ 個々の活動、それそれの団体の発展にとどまらず、他者と協同（協働）する意識に着目し、ネットワークづくりを推進する
- 4-⑦ ボランティア同士が問題意識を共有する場をつくり、双方向の議論によって互いが学び、あらたな課題の発見につなげる
- 4-⑧ ボランティアを社会づくりや組織活動・運営の重要な構成員として認識し、活動の企画や実施、評価に参加できるしくみをつくる
- 4-⑨ ボランティアの問題提起や提案を広く受けとめ、解決に向けてともに活動プログラムを開催する
- 4-⑩ 困難な課題を社会に開き、多様な人々が出会い、話し合う場をつくることによって、より良い社会の創造に向かう

O*O*O これから議論を深めていくための補足として O*O*O

① ボランティアコーディネーターって誰のこと?

JVCAでは「ボランティアコーディネーター」という言葉を幅広くからえて使用しています。現状ではボランティアコーディネーターという呼称で仕事をしている人はそろ多くはありません。しかし、ボランティア活動が、多様なスタイルの市民活動として展開されている今、福祉・保健、教育、まちづくり、文化・芸術、環境、災害救援、人権擁護、国際交流・協力などさまざまな分野の多様な場面でボランティアを支えるスタッフは確実に増えています。私たちは、ボランティアコーディネーターを「市民のボランティアな活動においてボランティアならではの力が發揮できるよう、市民と市民または組織をつなぎたり、組織内での調整を行うスタッフ」と定義しています。

② あらゆる分野に共通して追求する"価値"と"果たすべき役割"をあげました。

JVCAではあらゆる分野のボランティアコーディネーターが共通して追求する価値と果たすべき役割があると看えています。持すべき知識や技能については専門性が高まるほど分野や機能による個別性が出てくるものと思われますが、ここでは分野を超えて共有できると思われる要素を掲げています。

③ 専門性を明らかにするための1ステップだと考えています。

JVCAではボランティアコーディネーターがその組織において、専門的な役割を持つたスタッフとして位置づけられ、その業務が必要不可欠なものとして認知されるために、ボランティアコーディネーターが持つ専門性（価値、知識、技能）の中身を明確にし、幅広い人々に理解していたくことが重要だと看えています。ボランティアコーディネーターの基本的な指針を明文化することで、私たちの意識や仕事を狭い枠に閉じ込めるこにならないかと危惧する声もありますが、私たちの専門性を明確にし、社会的な認知を進めしていくためには、この作業が必要不可欠なステップだと看えます。

④ 現場のコーディネーターたちの声をあわせて実践的なものにしたいと思っています。

JVCAでは『ボランティアコーディネーター基本指針』を策定することで、一人ひとりのボランティアコーディネーターがそれぞれの実践現場で生き生きと働く環境につながっていくことが大切だと思います。「上司に説明する業務指針や資料がほしい」「自分の役割を他のスタッフに理解してもらいたい」「誰でもできる仕事と誤解されず早く運動させられてしまう」等等、これまで寄せられたたくさんの方の要望や悩み、さらには新たな意見交換を重ねながら、"コーディネーターが元気になる"ためのスタンダードづくりをしていきたいと思います。

【発行】

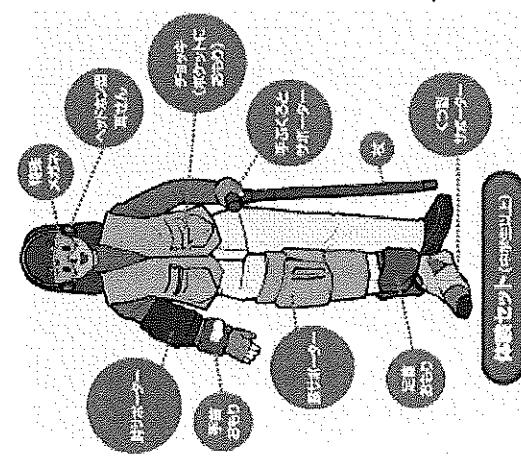
特定非営利活動法人日本ボランティアコーディネーター協会
〒101-0064 東京都千代田区猿楽町2-2-5 奥新ビル206号
TEL & FAX 03-5280-2601 E-mail : jvcmail@jvca2001.org
発行日 2004.9.8

高齢者疑似体験 ワークシート①

2年 組番 氏名

高齢者疑似体験の目的

(1) 高齢者の心身の機能の低下への無理解や蔑視などの高齢者差別に気づく



(2) 高齢者（ ）の背景を知る

(3) 高齢者も障害者も、すべての人が、家庭や地域で通常の社会生活を営みたいと願っていて、それを現実にすること

(4) 障害者が町で通常の活動ができるように物理的な壁を取り払うこと

(5) 高齢者も障害者もすべての人が、利用できるように、商品も街もサービスも設計しておくこと

(6) 高齢者が、自らできることは自分で起きるように支援すること

<体験するにあたって>

①まじめに取り組みましょう。
②危険なことをしない。気分が悪くなったら、無理をせずに器具をはずしました。

（1）廊下歩行、自動販売機 体験	体験・観察で、感想・工夫・改善のチェックポイント	高齢者疑似体験者の感想	介助者の感想
（1）廊下歩行、感想・工夫・改 善のチェックポイント 武道場から廊下へ出て歩く	①段差 ②視野（幅広さ、遠近） ③音 ④歩行	自動販売機で、買い物をする。 ①ビン・缶は見えやすいか ②お金を入れやすいか ③ボタンを押しやすいか ④ビン・缶を取り出しそういか 観察して後、全体的な感想	
（2）起居動作、字を書く、箸を動かす	体験・観察で、感想・工夫・改 善のチェックポイント	高齢者疑似体験者の感想	介助者の感想
耳	聴力は20歳くらいから低下が始まりますが、難聴の自覚は50歳過ぎごろからです。ヘッドホーンをつけることで高音性の難聴などを再現します。	①立っている→寝る ②寝ている→立つ ③座る（ ） ④その他の（ ）	
眼鏡	老眼は40歳くらいから始まります。	字を書く ①ペン等をもつ ②字を書く	
眼鏡	加齢から生じる白内障によって起る色覚変化（ぼやけて見える機能や視野の狭窄）などを体験します。	観察して、全体的な感想	
加重チヨック	加齢とともに筋力が低下する現象を体験者の体重に對比させた重りを入れたチヨック（ついに君は重り入りのリュック）をつけて、加齢にともなう前かがみの姿勢などを再現します。	①箸を持つ ②箸でつまむ、運ぶ	
肘サポーター	肘関節を固定して、手首に重りをつけることで、筋力の低下によって肘関節角度の動きの変化や骨格、肩関節の変化や前かがみの姿勢から起る手の拳上がしにくくなる状態などを体験します。	観察して後、全体的な感想	
手袋	手袋をはくことにより手の触覚、圧覚、温覚などの変化を再現し、細かい作業がしにくく、物が掴みにくい、掴んだものを落しやすいなどの状態を体験します。	高齢者疑似体験をして解つたこと	
膝サポーター	膝にサポーター、足首に重りをつけたことで、下肢の筋力の低下にともない、膝関節が動きにくくなる状態を体験します。	高齢者疑似体験をして、解らないこと（疑似体験の限界）を想像して書いてください。	
足重り	足首の関節に靴型サポーターをつけることで、足関節が半固定され、歩くときにま先が上がりづらしくなる状態などを体験します。		
靴型サポーター	不自由になつた体を安定させるために支える用具です。安全効果などを体験します。杖は何も装着していないほうの手で持ちます。		
杖	危険防止の観点から、片方の利き手、利き足に装着します。		
取り扱い			

資料 高齢者のための国連原則（1991年12月16日：国連総会で採択）

(() : Independence)

高齢者は

- ・収入や家族・共同体の支援及び自助努力を通じて十分な食料、水、住居、衣服、医療へのアクセスを得るべきである。
- ・()、あるいは他の収入手段を得る機会を有するべきである。
- ・退職時期の決定への参加が可能であるべきである。
- ・適切な()や職業訓練に参加する機会が与えられるべきである。
- ・安全な環境に住むことができるべきである。
- ・可能な限り長く()に住むことができるべきである。

(() : Participation)

高齢者は

- ・社会の()として、自己に直接影響を及ぼすような政策の決定に積極的に参加し、若年世代と自己の経験と知識を分から合うべきである。
- ・自己の趣味と能力に合致した()として共同体へ奉仕する機会を求めるべきである。
- ・高齢者の集会や運動を組織することができるべきである。

(() : Care)

高齢者は

- ・家族及び共同体の介護と保護を享受できるべきである。
- ・発病を防止あるいは延期し、肉体・精神の最適な状態でいられるための()を受ける機会が与えられるべきである。
- ・()性、保護及び介護を発展させるための社会的及び法律的服务へのアクセスを得るべきである。
- ・(思いやり)があり、かつ、安全な環境で、保護、リハビリテーション、社会的及び精神的()を得られる施設を利用することができるべきである。
- ・いかなる場所に住み、あるいはいかなる状態であろうとも、自己の()、信念、要求、()及び、自己の介護と生活の質を()権利に対する尊重を含む基本的人権や自由を享受することができるべきである。

(() : Self-fulfillment)

高齢者は

- ・自己の可能性を発展させる機会を追求できるべきである。
- ・社会の教育的・文化的・精神的・娯楽的資源を利用することができるべきである。

(() : Dignity)

高齢者は

- ・尊厳及び保障をもって、肉体的・精神的()から解放された生活を送ることができるべきである。
- ・年齢、性別、人種、民族的背景、()等に関わらず公平に扱われ、自己の()的貢献に関わらず尊重されるべきである。

現代社会 高齢者疑似体験学習 指導案 (案)

11 注意点

- ◇高齢者疑似体験が高齢者理解だけを目的にしない。心情的・道徳的・精神的な理解にとどまらないよう注意する。
- ◇心身の特徴を画一的に捉えるのではなく、個人差も含めて多様な高齢者像を持つように助言する。
- ◇取り巻く社会のしくみや、そこにある問題を理解することが大切であるが、事後指導で深めるので本時ではあまり触れない。
- ◇高齢者とともに生きる「自分という存在」も「当事者」であると考えさせ、遊んだり注意散漫にならないように注意する。
- ◇「自立」については、事後指導で学ぶ。介助者役が必要以上に手を出さないように助言する。

12 用意するもの・こと

- ◇ワークシート、高齢者疑似体験セット
- ◇事前指導として、3人一组を作り（体験活動役、介助者役、観察者役）、ローテーションも決める。

13 学習の流れ

内 容	教員の指導活動	生徒の学習活動	留意点
導入 5分	・整列点呼 ・外部講師の紹介 ・本時の目標の確認	・ワークシートを持参させる（忘れておらずに余分を用意しておく） ・筆記用具持参	事前指導 事前指導時に持参。 外部講師による学習 3人組編成 用具セット済
展開 I 5分	オリエンテーション （活動前の説明、諸注意）	・全教員：全体の進行役をする ・外部講師より ・体験学習のねらい、金体注意 ・セットの装着と活動の指示	・係員が配置され呼ばれるまで、新聞等で誰にどの政党に投票するか最終的に意思決定する
展開 II 10分	ローテーションI 前班 各班A (体験) B (介助) C (観察)	・体験役が接種して活動、介助役は危険回避のために付き添い、観察者役は活動全体を見れる。	・各役は活動後にそれぞれの感想をワークシートに記入する。
展開 II 10分	ローテーションII 前班 各班A (体験) B (介助) C (観察)	・体験役が接種して活動、介助役は危険回避のためにつき添い、観察者役は活動全体を見れる。	・各役は活動後にそれぞれの感想をワークシートに記入する。
展開 II 10分	ローテーションIII 前班 各班A (体験) B (介助) C (観察)	・体験役が接種して活動、介助役は危険回避のためにつき添い、観察者役は活動全体を見れる。	・各役は活動後にそれぞれの感想をワークシートに記入する。
8 単元目標	①少子高齢社会の現状と課題の概略を知り、現在および将来の自分の課題として考えることができること。 ②高齢者への偏見と差別（エイジズム）に正面から向き合い、自分の感性・意識・知識を評価できる。 ③高齢者疑似体験をして、高齢者の視点から何がベリアであるかなどに気づく感受性を豊かにさせる。 ④高齢者が社会参加ができるためのエビバーサルデザインについて関心を高める。	道具の片づけ 質疑応答 外部講師の方への質疑応答等	外部講師の方への評議評定 次回までにワークシートを記入しておく
9 本時の目標	①高齢者疑似体験で、高齢者の視点で高齢者の生活と人権を見直し、話し合えるための土台となるものを体験する。 ②社会のベリアに気づき、「〇〇できない」という思い、みから、「〇〇できる」という、環境を変えるためのポイントに気づかせる。	道具の片づけ 外部講師の方への評議評定	外部講師の方への評議評定
10 単元計画	①少子・高齢社会とは・・・・・・・・・・・・・・・・1時間／6時間 ②高齢者のイメージ・定義（エイジズム）・・・・・・・・0.5時間／6時間 ③高齢者のための国連原則、エビバーサルデザイン・・・・1時間／6時間 ④高齢者疑似体験（外部講師との協同授業）・・・・1時間／6時間（本時） ⑤アクティブ・エイシング・「自立」の定義・・・・1時間／6時間 ⑥レポート課題（祖父母・父母へ「老い」についてインタビュー）・・・・2時間／6時間	道具の片づけ 外部講師の方への評議評定	外部講師の方への評議評定

高齢者疑似体験アンケート

交流したいのは、以下のどのような内容ですか（複数回答あり）

- あなたの性別
□男性 □女性
あなたは祖父母と同居していますか □している（していた
□していない
あなたは、高齢者との交流などを小中学校でしたことありますか
□ない □ある（
）

- 1 「何歳以上の人人が『高齢者』『お年寄り』だとと思うか
①55歳以上 ②60歳以上 ③65歳以上 ④70歳以上
⑤75歳以上 ⑥80歳以上 ⑦一概には言えない
2 どのような時期からが『高齢者』『お年寄り』だとと思うか
①子どもが結婚したり独立した時期
②仕事から引退し、現後の第一戦を退いた時期
③年金を受けるようになった時期
④身体の自由がきかないと感じるようになった時期
⑤配偶者と死別した時期
⑥介護が必要になった時期
⑦その他（
）

- 3 高齢者の「イメージ」について、以下の選択肢から三つ選んでください。
①周りの人とのふれあいが少なく、孤独である
②健康的な生活習慣を実践している
③貯蓄や住宅などの資産があり、経済的にゆとりがある
④仕事をしていないため、社会の役に立っていない
⑤ボランティアや地域の活動で、社会に貢献している
⑥経験や知恵が豊かである
⑦収入が少なく、経済的な不安が大きい
⑧心身が衰え、健康面での不安が大きい
⑨時間に縛られず、好きなことに取り組める
⑩古い考え方方にとらわれがちである。

- 4 自分の高齢期の生活に不安を感じているか
①大きいに感じている ②多少感じている ③あまり感じていない ④全く感じていない

- 4①②-1 ①と②に○をつけた人だけ答えてください。
不安を感じていることの内容として当てはまるものはどれですか（複数回答あり）
①家族の健康 ②地域など家族以外の人間関係 ③自分の健康
④年金・介護・医療など社会保険給付の減少 ⑤税金や社会保険料負担の増加
⑥雇用・失業 ⑦配偶者との死別 ⑧家族との人間関係
⑨その他（
）

- 5 世代間交流について、どう思いますか？
①交流したい ②交流したくない ③どちらでもない
5①-1 5の質問で①交流したいと答えた人だけ答えてください

- ①職場等で一緒に仕事（作業）をする
②ボランティアや町内会の地域貢献活動をともにする
③趣味・スポーツや生涯学習などの活動をともにする
④一緒に住むなどして、日常生活をともにする
⑤その他（
）

- 5②-1 5の質問で②交流したくないと答えた人だけ答えてください。
交流したくない理由は何ですか（複数回答あり）
①忙しく暇がないから ②話が合わないと思うから
③趣味の対象が違うと思うから ④活動のペースが合わないと思うから
⑤気をつかうのがわざわしいから
⑥その他（
）

- 6 現在の日本の社会では、高齢者は一般に優遇されていると思うか
①そう思う ②まあそう思う ③あまりそう思わない ④そう思わない
7 高齢者に対する差別や偏見はあると思うか
①あると思う ②ないと思う

- 8 今後、高齢者に対する扱いをどのようにしていくべきだと考えるか
①高齢者をもつと優遇すべき ②現状のままいい
③若い世代、現役世代をもっと重視すべき
9 一般論として、高齢者の生活費は主に何によつてまかなうべきか
①家族や公的年金に頼らず、預貯金や自分の収入でまかなくべき
②家族が面倒みるべき ③公的年金等によってまかねがわれるべき
⑤わからない

- 10 政府で取り組んでいる「少子高齢化」政策で特に期待するものは何ですか。三つまで
の複数回答で答えてください。
①誰もが利用しやすい公共施設・交通機関を整備する
②子育てのしやすい環境をつくる
③自らの老後の備えとして、資産形成・活用や行いやすい仕組みを作る
④政治が自分に無関係・縁遠く感じられる
⑤高齢者が行動する機会を確保する
⑥良質で多様な住宅の普及をはかる
⑦公平で安定的な公的年金制度を確立する
⑧介護保険制度の充実により、安定的で質の高い介護サービスを提供する
⑨ボランティアやNPOなどの支援を通じて、高齢者が社会参加しやすい環境を作る
⑩快適な年環境の形成、農産漁村の活性化を図る
⑪安心して暮らせるように、防犯・防災に取り組む
⑫生涯を運じて学習を継続できる仕組みを作る
⑬公平で安定的な高齢者医療制度を確立する
⑭情気や要介護状態を予防するための健康づくりを支援する
⑮労働者が能力を発揮して働きやすい環境をつくる

産業社会と人間『市民講師・外部講師によるキャリア教育』案

1. 名称 産業社会と人間『市民講師・外部講師によるキャリア教育』

2. 日時 月 日 () 第6限・第7限
3. 目的 産業社会と人間の後半の目標である、ライフプランの構成の前に、社会で活躍されている職業人、社会人、学生、地域の住民、PTA、同僚生、市民の方々から、現在の職業や生き方などのキャリアをどのようにして形成してきたのか、また現在形成しているのかの講演を開き、ライフプランを作成し、高校生としての在り方・生き方・進路形成への努力目標を設定するための参考にする。
4. 対象 1年生生徒、PTA
5. 内容 原則として、講師の方々の中から、生徒自身が自分の興味・関心・進路に応じた市民講師の方々を選び、講演を聴く。

6. 方法

- 月 日 () オリエンテーション、講師希望調査
日 () 参加講師の連絡
- 月 日 () 講演をワクシートに記入
- 月 日 () 講演のまとめ、講師への短い礼状書き 札状はまとめて後日差送
7. 講師
- ①〇〇 新聞記者 〇〇 〇〇 (編集局長)
 - ②〇〇市役所 職員 〇〇 〇〇
 - ③〇〇警察署 〇〇 〇〇
 - ④ハイジエ 〇〇 〇〇
 - ⑤薬剤師 〇〇 〇〇
 - ⑥キャリアコンサルタント 〇〇 〇〇
 - ⑦NPO (まちづくり) 〇〇 〇〇
 - ⑧〇〇消防署 (救急救助士) 〇〇 〇〇
 - ⑨花屋 〇〇 〇〇
 - ⑩美容師 〇〇 〇〇
 - ⑪NGO (国際協力) 〇〇 〇〇
 - ⑫会社員 〇〇 〇〇
8. 日程
- | | | | |
|-------------|--------------|--------|--------------------------------------|
| 14:00 | 講師の方会議室へ | 学校より挨拶 | 日程説明、講師紹介
(パソコン使用の方など時間が早まる可能性あり) |
| 15:20～15:30 | 休憩 | | |
| 16:20 | 講演終了後、会議室へ集合 | | |
| 16:30 | 学校より謝辞 | 解説 | |

9. 講演計画 場所、講演者、担当教員

①6時間目 (14時30分～15時20分)

場所	1～1	1～2	1～3	1～4	1～5	1～6
講演 講演 社会の木鐸をめざして	○○市をプロデュースする	安全なまちをつくる	おいしいケータリング作りたい	健康的な暮らしをつくる	健康新聞	天職を見つけるために
講師 ○○新聞 担当	○○市役所	○○警察	○○○○	○○○○	○○○○	○○○○
準備	パワー・ポイント使用	ビデオ使用		パワー・ポイント使用		

場所	普通1	普通2	普通3	普通4	普通5	普通6
講演 講演 まちをプロデュースしよう。	一人でも多く早く助けたい	自分にあった仕事を見つけたるには	人を美しくするためには	世界で起きていることに関心を持つて生きる	世界で起きていることに関心を持つて生きる。食と農と暮らしをつなぐ	世界で起きていることに関心を持つて生きる。
講師 ○○○○ 担当	○○○○	○○○○	○○○○	○○○○	○○○○	○○○○
準備						パワー・ポイント使用

②7時間目 (15時30分～16時20分)

場所	1～1	1～2	1～3	1～4	1～5	1～6
講演 講演 社会の木鐸をめざして	○○市をプロデュースする	安全なまちをつくる	おいしいケータリング作りたい	健康的な暮らしをつくる	健康新聞	天職を見つけるために
講師 ○○新聞 担当	○○市役所	○○警察	○○○○	○○○○	○○○○	○○○○
準備	パワー・ポイント使用	ビデオ使用		パワー・ポイント使用		

場所	普通1	普通2	普通3	普通4	普通5	普通6
講演 講演 まちをプロデュースしよう。	一人でも多く早く助けたい	自分にあった仕事を見つけたるには	人を美しくするためには	世界で起きていることに関心を持つて生きる	世界で起きていることに関心を持つて生きる。食と農と暮らしをつなぐ	世界で起きていることに関心を持つて生きる。
講師 ○○○○ 担当	○○○○	○○○○	○○○○	○○○○	○○○○	○○○○
準備						パワー・ポイント使用

WORK1 ボランティアについて考える

中学生のボランティアは来てもらっています。内申書に役立つと言つて、ある中学校は大型バスで大勢の生徒をよこしてきました。施設内では友達とおしゃべりする生徒が少なくなく、指示がなければ動きません。壁に寄りかかって眺めているのはまだいい方で、時間があれば座り込み参考書を読んで勉強をしている生徒もいます。生徒に利用者の介助をお願いしたら、「先生！こ～へ来るだけじゃないって言ってたのに、ひどい」と利用者の前に先生に苦情を言いします。責任のある大切な仕事をまかせられません。中学生でもできる活動をわざわざつくりますが、それさえきちんとしているかどうか常に監視で指導されなければいけません。目的意識もやる気もない中学生が来たら、その世話をする余計な仕事が増えるばかりです。私たちは学校の先生と違います。ボランティアは生徒本人が自発的におこなうはずですが、なかには、親が訪ねてきて「ボランティアをさせたいが、活動証明書を出してくれないか、学校の先生に内申に書いてもらうために提出するから」とボランティアの依頼をします。利用者のある方は「また中学生が来た。まだ中の子たちの相手をしないといけない」となんざりする方もいます。中学生たちは利用者にボランティアをしてあげているといふつもりでくるようですが、利用者の方がボランティアをしています。中学生や学校や保護者に対応していれば、利用者に対するサービスが頗るみたいで、職員は利用者に対してサービスをするために働いています。中学生が来つてしまします。

WORK2 なぜボランティアをするの？

<参考>「人はなぜ学ぶのか」～学習動機の2要因説～

大（重視） 学習内容 の重要性 小（軽視） 他者につられて	(先天) 志向 学習自体が楽しい	(訓練) 志向 知力を鍛えるため	(実用) 志向 仕事や生活に生きかね い
大（重視） 学習の功利性（学習にともなう賞や罰を意識）	小（軽視）	大（重視）	大（重視）

充実志向

学習すること自体が楽しいし、やっていると充実感がある。楽しい内容でないといけない。やると得をするかどうかなんということは考えていない。

訓練志向

知力を鍛える。やると頭が良くなるような課題でないとやり甲斐がない。

実用志向

勉強というのは自分の将来の仕事や生活に生かせるからやる。後に立つ内容でないと困る。

関係志向

「みんながやっているから」 「先生が好きだから」。他者につられて勉強する。内容について関心がなく、「何を学ぶか」よりも「誰と学ぶか」に関心がある。

自尊志向

プライドや競争心から「人に負けるものか」「テストでいい点を取つたりすると、何か優越感がわく」

報酬志向

「成績がいいとおこづかいがもらえる」「〇〇に合格すると△△△△を買ってもらえるから」という理由で勉強する。関心はおこづかいや△△△△になりにあるのであって、学習している内容自体にたいした興味があるわけではない。

WORK3 「迷惑ボランティア」チェック

どうせボランティアなんだから…普段の活動をぶりかえってみてください。

- 時間にルーズ 仕事が手抜き 約束を守らない
- やりたいことしかしない 長続きしない 無責任
- ブライバシーを守らない 自己満足 受け手を利用
- 「やってやっている」という優越感 金銭感覚なし スグに助けたがる
- 受け手を無視（ボランティアの方が解っているにきまつて）
- 高齢者を赤ちゃんや子どものように呼んで接する 指示がないと動かない

WORK4 三人の日記

三人のひとが同じごとで、違う日記を書きました。。。。。

会社員の日記

ガタンと電車が動き出した。空席なし。新聞の立ち読み。ドアのガラスにへばりついて立っている若い男に気づく。松葉杖をついている。腰掛けている連中は知らんぷり。目の前に腰掛けている学生風の若者は、うつむいてトボケている。
「おい君 立ちなさい 他の人に席をゆずりなさい」
学生はふくれっ面でコソコソと隣の車両へ消えた。
「さあ どうぞ 座つてください」
若い男はモグモグと声を出しが言葉にならない
「さあ 遠慮しないで どうぞ！」

若い男を抱えるようにして座席に座らせる。ギイガタンと電車が止まつた。
「気をつけでね」
松葉杖の若者に声をかけて電車を降りる。電車のドアがしまって、ガタンと動き出した。
私は心の中で叫ました。…大変だうけど、頑張るんだよ…
すがすがしい気分で、家路についた。

WORK5

当事者の詩を読む

アルバイト学生の日記

ガタンと電車が動き出した。俺はクタクタだ。毎日ハイト！ 大学！ バイト！ 今日はやつと早く帰れると思ったら、ハイト先の店舗にどやされて気分悪い… フン、ハイトなんてやめちゃおうかな… 俺はうつむいたまま、立っている乗客の足をにらんでいた。…
「おい君 立ちなさい、あの人には席をゆぢなりさ！」
俺はムカツイタ！ でも我慢して立つた。… えん腰がいてえ… 威わした体をひきずっとヨコヒヨコヒヨコと脚の車両へ… 俺の背カニオッサンのイイ子ぶつた声がつきさる。
「さあ、どうぞ 座つてください」「さあ、遠慮しないで、どうぞ！」
「ん、めえが席をゆぢたみたいに言うない！…俺は、隣の車両に移つたとたん！」
ギイガタンと電車が止まつた。はずみで、おれはヨロケテ、女子高生の足につまづいて転んだ！ キヤア！ 黄色い突い声！ 電車のドアがしまって、ガタンと動き出した。
とたん、またヨロケタ！ また黄色い突い声！ ムカシキばなしのオレの心に、なぜか松葉杖の男が浮かんだ！ フン、あんな奴が、一人で電車に乗るからいけないんだ！

ボランティア拒否宣言

《花田 えくほ》
それを言つたらオシマイと言う前に、一体私に何が始まつていたと言ふの
何時だつてオシマイの 向こうにしかハジャリは無い、
その向こう側に 私は車椅子を漕 (こ) ぎ出すのだ
ボランティアこそ 私の敵 利はばランティアの大達を 拒否する
ボランティアの大達は 私を優しく自感させる
ボランティアの大達は 私を巧 (たくみ) に甘えさせる
ボランティアの大達は アテにならぬものを頬らせる
ボランティアの大達は 残された値 (わずか) かな筋力を弱らせる
ボランティアの大達は 私をアキセサリーにして街を歩く
ボランティアの大達は 車椅子の蔭で出来上がつている
ボランティアの大達は 私を優しい青年達の結婚式を飾る表れな道具にする
ボランティアの大達は 私を 夏休みの信題にする
ボランティアの大達は 彼らの子供達に體察日記を書かせる
ボランティアの大達は 私の我がままと頃 (がたく) なを確かな権利であると主張させる
ボランティアの大達は こう慢と無知をかけがえのない個性であると信じ込ませる
ボランティアの大達は 非常識と非協調をたくましい行動だと痛りたてる
ボランティアの大達は 文化住宅に解説区を作り自立の旗を掲げてたむろする
ボランティアの大達は 私と社会の間に溝を掘り幻想の中に孤立させる
私はその大達に尻尾を振つた
私は彼らの巧みな優しさに飼い慣らされた
汚い手で腰 (あご) をさすられた
私はもう彼らをいい気持ちにさせて上げない
今度その手が伸びてきました
私は きっとその手に噛みついでやる

ガタンと電車が動き出した。だのガラスに寄りかかって苦しさを我慢した。
いつものことだが、やつとのことで電車に乗ると息が苦しくて、呼吸が滞ち着くまでドアのお世話になる。苦しくても自分の力で電車に乗れた嬉しさにひたる。…これもいつものことだ。今日は次の駅で降りる。このまままでいようと思っていた。すると…
「おい君 立ちなさい、あの人には席をゆぢなりさ！」
まずい、獨り出でしかれど、今日はこのままでいい。それをうまく伝えられるかな？
サラリーマンらしいおじさんが私に近寄ってきた。
「さあ、どうぞ 座つてください」
私は不自由な口いっぱいにあけて説明した。…一度腰掛けると、立ち上がるのが大変なんです！ 次の駅で降りるのです！ このままがいいのです！ …でも通じない。
「さあ、遠慮しないで、どうぞ！」
おじさんは私を抱きかかえるようにして座席に座らせてくれた。さあ、困った。次の駅で降りるために、すぐに立ち上がる準備にかかるねば…でも、おじさんは、変に思うだろう。
親切してくれたおじさんに失礼だ…次の駅で降りるのはあきらめた…。
ギイガタンと電車が止まつた。
「気をつけでね」

おじさんはニッコリして降りていった。電車のドアがしまって、ガタンと動き出した。
いろいろなことが心につきまさる。おじさんに親切にしてもらつて…学生に嫌な思いをさせ
て…なのに私は、駅を乗り越し…やっぱり私は、電車に乗つてはいけないのである。
(脚団人かねがわともしひ脚刊行会『いっしょに行こう…』安部志郎監修)

「おおさか行動する障害者応援センター機関紙『すたこらさん』1986年10月号から引用」

「地域に飛び出す公務員ネットワーク」

公務員が変われば、日本が変わる！

内審の三つの参加

卷之三

- ・地域を豊かにする“公共”は、もはや行政のみが担うものではない。
 - ・住民自らの知恵と行動、地域コミュニティの力(“住民力”)を発揮すべき時代。

公務員も一住民として、“住民力”の即戦力として、率先して地域活動に参画しよう！

“公務員参加型
地域おこし”だ！

こうした活動に参画する公務員を結ぶ
「地域に飛び出す公務員ネットワーク」をつくります。

取組1

大正十二年(1923)秋月、新井不二郎著、北山謙次監修、『新井不二郎全集』

取組2

ーの活動としてのイベント等に、他のメンバーも参加し、どうして実際活用

取組3

「アリを随時実行し、ラジオストラーフェイバーで音楽放送」表示

メンバー

- ①住民協働やNPO、地域づくりに関わる担当者
 - ②その他、地域社会に想いを持つあらゆる公務員(国・地方の別、現在の職務を問わない)

九三

①互いに刺激し合い、ともに行動し汗を流すことで、さらなる活動へ
②公務員自身の地域活動を通じ、全国津々浦々の“住民力”を活性化

参加希望の方、ご関心のある方は、
総務省地域政策課 重徳(しげとく)
k.shigetoku@soumu.go.jp
までご連絡ください

公務員の皆さん、まずは参加してみましょう！
そして、地域を、日本を元気にしていきましょう！

達の意見の出番と議論



同校生、原卷どうぞ

「日本文化」 学習進度表

科目	日本文化		単位数	2	教科書名		学年組	3年 選択	氏名								
学期	月	単元 (配当時間)	学習内容			評価の観点	具体的な評価方法			評価方法							
1 学期	4	1. 日本文化とは何か 一見られる日本 自覚する日本 革新 科学技術・産業、アニメ 3. 日本語 日本語は乱れているか ネオ方言：若者語 4. 日本の民俗 年中行事 過儀礼 男らしさ 女らしさ	1. 日本をどう紹介しますか？ 日本文化をどう紹介するか 伝統 ファンクション 日本食（和食、洋食、中華） 日本の住居 革新 科学技術・産業、アニメ 3. 日本語 日本語は乱れているか ネオ方言：若者語 4. 日本の民俗 年中行事 過儀礼 男らしさ 女らしさ			知識 理解能力 表現能力 関心意欲態度	①日本文化の基本語句とその意味を習得する ②日本文化の多様性、多層性を理解する ③身近な自分自身の問題にあてはめて考えることができる ④第三者に日本文化を伝えるときに、具体的に経験的に、伝えられるか ⑤日本文化に対して関心を持ち、日常生活の中の日本文化について意識するようになる			・観察記録 ・作品法（ノート） ・テスト法（中間考査）							
	5	2. 21世紀の日本文化	6. 「日本人」論 7. 伝統文化 能・狂言・歌舞伎 中間考査 1. 簡単・便利の日本文化 2. マンガ文化 3. カラオケ文化			知識 理解能力 表現能力 関心意欲態度	①統計資料やデータをもとに日本文化の姿を客観的にとらえることができる。 ②文化理解に必要な専門語句を理解している。 ③外來文化や技術の変化を受けつつ、日本文化が多様化し、変容し続けていることを理解する。 ④現代の社会の変化を、文化理解の概念を用いて理解できる。 ⑤日本文化の現状について自分の意見や考えをまとめる表現できる。 ⑥現代の日本文化について表面的な理解から、より広く深く調べ理解しようと努めている。			・作品法（ノート） ・テスト法（中間考査） ・観察記録							
	6 7	3. 日本文化の多様性	4. 若者文化 流行とファンクション 5. 食文化の危機 現代家族論 6. 失われた景観 7. 萌え・オタク 期末考査 1. アイヌ文化 2. 沖縄文化			知識 理解 表現 関心意欲	①日本社会を構成する主体によって、日本文化が示す様々な様相について基本的な事実を知る。 ②日本の中の複数の文化について、担い手の現状、歴史、文化の特徴、日本社会との関係等について理解する。 ③異文化の人間の立場になり考えることができる。 ④現象を複数の視点から、他者に説明することができる。 ⑤人間に対して関心を持ち、積極的な交流や対話をするようになる。			・観察記録 ・作品法（ノート） ・テスト法（期末考査） ・作品法（課題レポート）							
	1学期ノハ言十																
2 学期	9		3. 障害文化 手話 4. サラカルチャー							・観察記録 ・作品法（ノート） ・テスト法（中間考査）							
	10	4. 日本文化の国際化	5. J-POP 6. 在日コリアン文化 7. 地方文化の東と西 8. ヤクザ 中間考査 1. ジャパンアニメーション			知識	①日本文化の評価や日本文化と他の文化との接觸と変容の様相について現状を知る。			・観察記録 ・作品法（ノート） ・テスト法（中間考査）							
	11 12	5. 日本文化とは何か	2. 日本映画 3. 魔流文化 4. 日系ブラジル人 5. 外国人犯罪とゼノフォビア 6. クジラとマグロ 7. グローバリゼーション 8. ジャポニズム 9. オリエンタリズム 10. 期末考査 12. テーマ学習① 13. テーマ学習②			理解 表現 関心意欲	①異なる文化に対する尊重の精神を持ち、それぞれの文化が持つ価値が同じであることを理解する。 ②偏見や差別にとらわれず、あるがままの日本の姿をとらえることができる。 ③複数の視点を持ち、自国の文化からを相対化して考え、表現することができる。 ④異文化に対して好奇心を持ち、理解しようと努めている。			・観察記録 ・作品法（ノート） ・テスト法（期末考査）							
	2学期ノハ言十																
3 学期			14. テーマ学習の発表 15. テーマ学習の発表			知識 理解 技能表現	①問題解決学習の手順を知る ②日本文化の現状から課題を見つけ、解決手段について見通し立てることの意義を理解する。 ③インターネットや資料を調査し、多角的な視点で問題を調べることができる。 ④自分の意見を論理的に説明し、他者に説得的コミュニケーションを取ることができる。			・観察記録 ・作品法（ノート） ・テスト法（学年末考査）							
	2		学年末考査			関心	①日常生活の様々な場面で、多文化主義的な視点でものごとを考えようと努めている			・観察記録 ・作品法（ノート） ・テスト法（学年末考査）							
3	まとめ		国際社会における日本文化														
	3学期 ノハ言十																
	年間実施時数 合言十																
	課題【論文・報告書・宿題等】時間																
	課題を含めた年間実施時数 合言十																